

会 議 録

1 会議名

令和7年度 第4回高田区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

自主的な審議（公開）

（1）中高生の居場所づくりについて

（2）今後の活動の進め方について

3 開催日時

令和7年8月18日（月）午後6時30分から午後7時51分まで

4 開催場所

高田城址公園オーレンプラザ 研修室・会議室

5 傍聴人の数

1人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）

・ 委 員：澁市会長、栗田副会長、廣川副会長

上原委員、北川委員、佐藤委員、柴田委員、下村委員、杉本委員、
富田委員、宮崎委員、村田委員、山崎委員、山岸委員、吉田委員、
淀野委員、渡部委員（欠席3人）

・ 総合政策課：石黒課長

・ 社会教育課：福山課長、田村高田城址公園オーレンプラザ館長

・ 事務局：南部まちづくりセンター 大島所長、石黒係長

8 発言の内容

【石黒係長】

・ 飯塚委員、町委員、茂原委員を除く17人の出席があり、上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

・ 同条例第8条第1項の規定により、議長は会長が務めることを報告

【澁市会長】

- ・会議の開会を宣言
- ・会議録の確認：澁市会長、上原委員に依頼

― 次第2 自主的な審議（1）中高生の居場所づくりについて ―

【澁市会長】

次第2 自主的な審議（1）中高生の居場所づくりについてに入る。

6月16日付で市長あてに意見書を提出し、この度、資料No.1のとおり回答があった。本日は市の担当課の職員から来ていただいたので、回答についての考え方などを説明いただいた後、質疑応答を行いたいと思う。

担当課に説明を求める。

【総合政策課：石黒課長】

- ・資料No.1により説明

回答文の冒頭にあるとおり、サードプレイスの必要性については市も委員の皆様と思いは同じかと思う。高田エリアには定時制を含めると八つの高校があり、市内だけではなく地域一帯から計算するとおおよそ4,000人の高校生が通学してきている。当課において高校生を対象にアンケートを実施し、その中で通学方法を尋ねたところ、あくまで推計ではあるが高田駅で乗り降りする高校生は1,000人程度いると考えられる。ほかにも上越教育大学附属中学校の生徒などもいるので実際はもっと多いと思われるが、それくらいの高校生が高田のまちにいるというのが日常になっている。

今回いただいた意見書の内容と当課との関わりであるが、当課では地方創生に関する取組を所管しており、その一つに人口減少への対策がある。市ではその課題として若者が高校卒業後に進学や就職のために当市を離れる、将来の夢に向かって一度離れざるを得ないという現状を認識している。そうであっても、当市を離れるまでに少しでもいい思い出、よい印象を残すことができれば、将来自分の夢と方向が合った時にきっと上越市を選んでくれるんじゃないか、そのようなまちづくりをしなければならぬという思いで、市政全体で地方創生の一環として若者が活躍できるまち

づくりに力を入れている。今回の提案についても、一つの切り口として大切な観点かと考えており、他市において駅にサードプレイスを設置する動きがあることも踏まえた中で当市の考え方をお示ししたい。

ここ数年、高校生の皆さんが自ら高田のまちに関わって、課題を見つけて自分たちで行動してみようという動きが盛り上がっている。昨年度、関根学園高校の生徒がサードプレイスの取組を行った際には、市もその活動に協力をさせていただいた。現在同校では今年度はどのように取り組もうか話し合いをしているところで、市としては高校生自身の動きや主体性を大切に、例えば、ほかの学校の皆さんとの交流したいというニーズも承知しているので、そういったところの連携協力していきたいと考えている。

高校生自らが動くことによって高田の商店街の皆さんを始め、いろいろな方々が関心を向けている。そういった皆さんの声をお聞きすると、最終的には若者の活力が高田のまちの活性化につながることを期待されており、市がサードプレイスの在り方を検討する上での考え方と通じるところである。

それでは、個別の施設について説明したい。最初にオーレンプラザについては、施設の稼働状況やすぐ隣の高田図書館で自習スペースを提供していることを考慮し、現行の運用上の対応は考えていないところである。照明の明るさについても、所管課のほうで改めて利用者にお聞きしたところ、暗いという声や要望は聞かれなく、今後利用者の皆さんとのコミュニケーションする中で要望等があった際には必要な対応について検討させていただきたい。

続いて、ミューゼ雪小町については、芸術活動や文化交流の場であるが、これまでも運用の中で供用スペースに机を増やすなど受入れ体制を随時拡充してきた。高校生による取組や今回の意見書を踏まえ、所管課ではほかの施設利用者との調整したうえで、予約が入っていない時間帯に限り多目的室を開放できるよう既に検討を進めているところである。

最後に雁木通りプラザについて、開館から約四半世紀が経過する中で、提案のあった4階の市民サロンについては、老朽化している空調設備の修繕に非常にコストがかかるということが大きな課題となっており、暑さ寒さを考慮すると学習場所として開放することは困難と考える。

ただし、同じ施設の3階に南部まちづくりセンターの会議室のほか、ボランティアホールという市民の皆さんが利用できる部屋があるので、設備や利用の状況、また管理上の支障も含めて、今後所管課のほうで対応について検討を進める。

一連の施設に関しては以上である。所管課や関係課での協議が整い、高校生の利便性向上につながるような動きを市が行う際には、例えば学校を通じて高校生の皆さんにお知らせをしたい。高田区地域協議会だよりでも高田図書館の利用について掲載したと聞いているが、高田図書館も含め例えばこういったところがこんな風に使えます。どうぞ使ってくださいと周知したいと当課では考えている。

全体としての説明は以上である。

【澁市会長】

ただ今の説明について質疑を求める。

【山崎委員】

オーレンプラザの照明に関して、今の明るさで問題ないということか。また、オーレンプラザの照明は既にLED化されているのか。

【社会教育課：田村館長】

LED化されている。

【山崎委員】

市民プラザでLED化の工事が今盛んに進められている。気になったので確認した。

【澁市会長】

今回いただいた市からの回答は、今までの回答に比べると前向きな内容だと感じている。市がこのように進めるということで、我々はフォローアップしていきたいと考えている。

【富田委員】

雁木通りプラザの市民サロンについて、空調設備が老朽化していて修理に大変費用がかかるということだが、このサードプレイスだけではなく、市では空調設備がダメだからもう使えないという考えか。

【総合政策課：石黒課長】

所管していないので正確な答えではないかもしれないが、少なくとも雁木通りプ

ラザの4階については、雁木通りプラザ設置条例の中で市民サロンという公の施設として設置されている。確かに夏、冬の使用には厳しい環境であるが、あそこで合唱の練習されている方たちもいらっしゃるということで、ご不便があるかもしれないが、施設自体を使用停止にするという考えは現時点でない。今後の予定については、情報は持ち合わせていない。

【富田委員】

修理等の費用はどのくらいかかるのか。

【総合政策課：石黒課長】

別の施設の見積もりを参考にすると、数百万円では済まないと思う。修理の程度や範囲によってもおそらく変わると思うが、普通にエアコンを設置するだけという問題ではない規模だと思う。

【山崎委員】

今の空調の話が出たが、小学校の統廃合が進んで使わない校舎が生じている中で、5、6年前にお金をかけて一斉に設置した教室の空調設備は今後どのように利用されるのか。それを有効に使えば、費用を抑えられるかと思うがどうか。

【総合政策課：石黒課長】

廃校になった学校の空調設備を設置できないかということで、私見だが、できる場合もあるであろうが、表に見えるものだけではなくて全部セットで組まれているので難しいのではないかな。

【吉田委員】

ミュゼ雪小町が入っているあすとぴあ高田の1階には結構空きスペースがある。そこを子どもたちの勉強スペースとして市が活用することは考えられないか。

【総合政策課：石黒課長】

あのビル自体が民間の再開発事業というか、そのような手法を用いたものである。1階については持ち主の方がいて借りる費用が発生する。また、サードプレイスという機能を考えると場所だけあればいいのか、どなたか見る人がいないと管理上よくないのではないかなど、ハード面、ソフト面、双方から考えながら進める必要があると思うし、現時点で市の中ではそのような話は聞いていない。

【澁市会長】

雁木通りプラザだが、そこで正副会長と事務局で地域協議会の事前協議を行っている。スペースはそんな大きくないが、10人ほどが座れる机もあるので、ぜひとも雁木通りプラザの2階か3階にそういうスペースを作っていただいて、学生たちが勉強できる環境をなるべく早く整えていただければと思っている。それほど費用もかからないだろうし、4階の空調設備については、おそらく建物ができた当時のものと思われるので、それを取り替えるのは相当お金がかかると思う。素人的に考えると大規模な空調施設ではなくても、例えば、冷暖房のユニットを4か所ぐらいに置けば、かなりの効果が出てくるのではないかなと思う。せっかくのスペース、高田中心部にあって何も使われていない、春と秋しか使えないというのは非常にもったいない。投資効果としてはマイナスになってしまうので、もっと安価な設備によって利用できるよう方法を検討いただければと思う。

【渡部委員】

オーレンプラザの件で伺いたい。意見書の中に「公民館としての役割も考慮し」という文言を入れたが、その視点での回答が見受けられない。高田図書館が近くにあるということも確かにそうだが、公民館であるというところを考えれば、高校生の交流の場であってもいいと思う。オーレンプラザには広い駐車場があって利便性も高いので幅広い市民から利用されているが、高校生は利用しなくていいのか。図書館は学びの場という性質が強い。オーレンプラザに高校生の場所を確保することで、いろいろな交流の場が生まれ、その中でまた何か活動が生まれるかもしれない。そういった公民館としての役割を踏まえた回答を聞きたかったというのが率直な感想である。

照明の明るさについて高校生に聞いてくださったが、何人ぐらいの高校生の聞き取りを行ったのか。また、例えば冬に意見を聞けば寒いという意見も出てくるのではないかなと思う。

今日は社会教育課の方もいらしているので、公民館としてオーレンプラザを捉えたらもっと変わっていかねばならないというところがあるかと期待していた。回答では、引き続き利用している学生とのコミュニケーションをとると述べられているが、核心的に変わっていくのかというところがよくわからない。

石黒課長から若者が活躍できるまちづくりについて話があったが、若者の予備軍というか、例えば起業する20代の前に高校生の時代があって、高校生自ら動いてい

るというサードプレイスの取組の話もあった中で、やはり東京や関西に一度は出て行ってもまた戻ってきたい、戻ってきたいまちであるかという部分で言えば、高校生の時に何かいろいろ楽しいことやったよねという記憶も大事だと思う。そういう場を公民館であるオーレンプラザがもっと提供していくべきで、オーレンプラザが核となって何か新しい上越の姿を描いていけるのではないかと、個人的な意見だがそう考えると、ここに書いてある内容では私としては心にあまり響いてくるものがなかった。その辺の公民館としてのオーレンプラザをどう考えているのか、もう少し伺いたい。

【社会教育課：福山課長】

公民館はどなたが集まってもいいところであり、もちろん高校生からも来ていただきたい。高校生が日頃、学習スペースとして使用していることは我々も承知しており、施設の機能を失わない範囲でぜひ活用していただきたいと思っている。過去にオーレンプラザの学習スペースが足りないという状況になった際、オーレンプラザの会議室の稼働率はかなり高い一方、高田図書館の会議室の稼働状況は高くない状況であったことから、何とかスペースを確保しようということで令和5年4月から高田図書館の会議室について利用がない時に開放する取組を開始した。幸いオーレンプラザと高田図書館の休館日が異なるので、それぞれ補完し合うような形で高校生に学習スペースを提供している状況である。今現在、高田図書館のほうは満席に至ることはないという状況を踏まえ、今後も皆さんの声を聞いたうえで必要な対応を取ってまいりたいと考えている。

公民館には、集う、学ぶ、結ぶという機能があり、我々ももっと高校生に公民館を利用していただきたいという思いを持って日頃から取り組んでいる。今いただいた意見も踏まえ、これからも取り組んでまいりたい。

【社会教育課：田村オーレンプラザ館長】

先ほど何人の中高生に聞き取りを行ったかという質問があったが、6月に館内2か所の共用スペースにおいて15人くらいから意見をもらったものである。共用スペースの机は、天井の照明の下になるように配置している。

勉強している様子を見ていると、意見書にもあったようにソファで勉強しているお子さんもいる。例えば、土日に朝から来られているお子さんたちを見ていると、机

の席で1時間くらい勉強した後にソファのほうに席を替えて勉強する人もいます。時には、タブレット端末などを使ってソファで勉強している様子もあり、お子さんたちは広い空間の中で、自由な雰囲気の中で、学習していると認識している。

今後も、お子さんたちとコミュニケーションを取りながら、意見をいただいたり、何か困っていることがあれば教えてもらって対応していきたい。

【澁市会長】

渡部委員、この問題は話し合っていくとエンドレスになってしまう。公民館の役割というのは、人それぞれの理解の仕方が違うので渡部委員のおっしゃることは分かるが、これをずっと議論していくと時間がなくなると思う。

【渡部委員】

会長のおっしゃることも分かる。私も公民館に詳しいわけではなく、オーレンプラザが高田地区公民館であって中央公民館だということも知らなかった。協議会でサードプレイスを検討する中でそうだと知った際、では、もっと公民館らしくやってもいいのではないかと、まちづくりの起点、インフラとしてやはり公民館はとても重要なインフラだというふうに思った次第である。今、田村館長がおっしゃった、コミュニケーションを取るというところを能動的な形でやっていただければうれしい。

一般市民の利用に少々支障が生じて私はいいいと思っている。なぜなら、大人は車で移動できるし、圧倒的に人口が多いので、そこを優先していたら高校生の優先順位が高くなるのではないかなと思う。支障が生じてもいいというのは少し言い過ぎだが、高校生や中学生にとって暮らしやすいまちになって、将来戻ってきたいと思うまちになっていけるのかというところをみんなで考えていかなければいけない。

【澁市会長】

今の意見に対して市からのコメントがあればお願いしたい。

【社会教育課：福山課長】

思いは同じところであり、引き続きしっかりと対応してまいりたい。

【澁市会長】

ほかに質問を求めるがなし。

我々の意見書に対する市の考え方が大体わかったと思う。特に、雁木通りプラザについて、どのように行動に移していくか我々も見守りたいと思う。

以上で、次第２ 自主的な審議（１）中高生の居場所づくりについてを終了する。
（総合政策課、社会教育課 退席）

― 次第２ 自主的な審議（２）今後の活動の進め方について ―

【澁市会長】

次第２ 自主的な審議（２）今後の活動の進め方についてに入る。

先ほどの意見書の回答を受領したことで話し合いの区切りが一応ついたことになる。つまり、我々の自主的な審議のテーマはないということになる。そこで、今日は、これからの高田区地域協議会の活動をどのようにしていくかを話し合いたい。例えば、自主的な審議のための新たな課題を発掘するための話し合いや、あるいは、地域の関係者との意見交換、地域協議会委員のための研修の実施などがあると思う。今の例にはとらわれずに、どういうことをしたいか意見を伺いたい。自由討論ということで今日結論は出ないと思うが、いただいた意見を取りまとめ、正副会長と事務局で草案を作る。

【富田委員】

３、４年前に前期の地域協議会の分化会で三つくらいのテーマについて話し合った。自分のグループは若者の地域参画についていろいろと調べ、レポートを作成して事務局に出してあるので、その後のフォローしたいというのが私の提案である。商店街のいくつかの店舗にヒアリングを実施したが、皆さんそれぞれが頑張っている。新たな店舗もできており、高田の市街地は活性化されてきていると思っているが、一方で閉店する店舗もある。前回の結論としては、若者にとって自分のお店の周知が一つの課題にあるのではないかと。SNSなどを用いればよいのではないかとということで、その時は一つの結論として「特に問題ない」ということにした。あれから３年、閉店した件数は調べていないが、これは大事だと思っている。高田もしっかりした若者が立ち上がなければならない。

【澁市会長】

一言で言うとどういうことか。

【富田委員】

閉店になっているところを調べて、課題などがないか関係者に聞いて、あればそれを自主的審議事項として話し合い、市に提案したい。

【澁市会長】

商店街の人たちとの話し合いが必要だということか。

【富田委員】

それもあるが、どうやったら継続していけるか、空き店舗に入ってくれるかということも考えていきたいと思う。

【澁市会長】

若者というよりも商店街ではないか。シャッターストリートになっているけれどもどうしてなんだということを知りたい、議論したいということか。

【富田委員】

若者の地域参画ということで4年前にレポート書いた。それがここにきて既に閉店になっている店舗がある。

【澁市会長】

若者の地域参加と商店街がシャッター通りであるということは、直接的な関係はないのではないか。

【杉本委員】

若者がこの間あちこちで出店している。その中で既に閉店した店があるので、そういうところを調べたりして、出店する方だけを応援するのではなくて、ダメになったところのケアも考えなくてはいけないのではないか。そういうことを議論したらどうだという趣旨だと思う。商店街のことではない。

【澁市会長】

若者が新規開店しても長続きしないと。

【杉本委員】

新規開店しているのは若者が多い。商店街というと話が大きすぎるということだと思う。

【富田委員】

それは私のレポートを見てほしい。3年後、4年後、また再調査するとある。

【澁市会長】

要するに、提案は新規開店した店が結構あるがなかなか長続きしない。それはどうしてなのか。これは一つの課題なのではないかということか。

身の回りの課題、町内の課題、祇園祭がなかなか上手くいかないというのも一つの課題ではないか。どうしていけばよいのか、そちらのほうが面白いと思う。自分が子どもの頃に比べると祇園祭は盛り上がっていない。直江津に比べると全然だがどうしてなのか。吉田委員が詳しいのではないか。

【吉田委員】

高田と直江津の考えや気持ちが違う。コロナの時も直江津の人たちはどうやってやるか、高田の人たちはなんとかやらないようにしておきたいという印象で、違いはそこではないかと思う。直江津は今年やめたら来年できないかもしれないからということで私も協力したことがある。高田はなんとなくそういう気持ちはないような気がする。気質の違いか。高田城開府の際、直江津のほとんどの寺社仏閣が高田に移転する中で、なんとか八坂神社は残してほしいと松平忠輝公にお願いし、その代わりに祇園祭では神輿を高田へ出張させることになったと言われている。自分たちの町は自分たちが頑張るんだと。高田は殿様に従ってきて、その殿様もちょいちょい変わる転勤者みたいなものだから。

【澁市会長】

皆さん、そういう話を祇園祭とかに関わらずしてほしい。

【富田委員】

高田祇園祭に関しては、稲田4町内を入れて33町内会でこの11月にワークショップを行う予定である。町内会長が集まって、今後高田祇園祭はどうしたらよいか、どのようにしていけばいいかという話をしていこうと思っている。

【澁市会長】

ワークショップはいつやるのか。

【富田委員】

11月頃に予定している。

【澁市会長】

何日か。

【富田委員】

そこまでは決まっていない。400年間続いている高田祇園祭を継続していきたいというのが宮元役員の声である。

【澁市会長】

課題だけではなくて、研修、あるいは、先ほど富田委員から意見が出たが地域の関係者との意見交換などはいかがか。今期ではないが、5年くらい前に地域の関係者から意見を伺ったことはある。

【杉本委員】

祇園祭のことでは直江津のほうは子どもの時からずっと街中の話題である。手初めに町内会長が集まる機会などで、祇園祭というのはどういう祭りなのかをレクチャーしてもらう必要があるのではないか。町内会長も2、3年で変わっていくので、祇園祭というものが何だかわからないまま、ただ神輿が来るからと追いまわられているという面がある。協議会でもそういう学習会をやったほうがよいのではないか。

【澁市会長】

祇園祭についての学習会は研修の一つとしてよいと思う。ほかにもこんなことを勉強したいという意見でよいので、皆さん、自由に発言してほしい。

【吉田委員】

今の富田委員の話だが、どこの人たちのワークショップか。

【富田委員】

高田祇園祭に参加する33の町内会である。

【渡部委員】

昨年初めて高田と直江津の民謡流しで踊った。今年も高田に参加したが、それぞれの違いが感じられた。直江津は祇園祭が近くなるとおはやしが聞こえてきたり、直江津っていいなと思って、屋台もすごく感激した。高田は民謡流しに参加する会社が減っている。それというのも、残業代を出す出さないなど世の中が変わってきたということがあると思う。

ただ、昨年すごく嬉しかったのは上越高校と関根学園高校の生徒さんたちが参加していたことで、サッカー部や野球部のユニフォームを着てすごく盛り上がって踊ってくれてとても感激した。前の議題に戻るつもりはないが高校生とかともっと交

流して、みんなで楽しもうという感じで、祇園祭はもっと変わっていくとよいと思う。春日山音頭とか、そういう時代のことを言っている、少子化で終わってしまうので新しい時代の高田をみんなで楽しもうよというところで何かできないか。

ほかに何かテーマがあるかと言うと、また公民館の話になるが、そういう拠点があって、みんなが交流して、上越教育大学もある。上越は文教のまちであったはずだが、今はあまり感じられない。何らかの形でいろいろ深めていけば、子育て世代にとっても楽しいことがあるかと思う。

【澁市会長】

具体的に言うと、交流の場を作れということか。

【渡部委員】

そういうところにフリースペースがあるといいと思う。

【澁市会長】

例えば、公民館のアクティビティの一つとして定期的な交流の場を月1回とか、そういうことか。

【渡部委員】

そうである。

【下村委員】

仕事で子育て支援に関わっている。小さな子どもが少なくなっていて地域での子育てというものがしにくくなっているというのは事実である。また、頼る人がいない。昔は近所のおばちゃん、おじちゃんによろしくって言ってたところができなくなって、子育て世代の方たちも外に開いていないし、地域の人たちもどうだねみたいところが少なくなっているから、交流と言われたが、何かそういうところは一つ課題であるかと思っている。

そう思いながら、今年遅まきながら町内会の役員になった。そうすると町内会のほうでは若い人たちの参加が少ないから困っている。町内会で頑張れるのは中高生に声をかけるところと小学生の子ども会まで。その下の世代、乳幼児やその保護者世代が町内会の活動に入っていく具体的な何かが思い浮かんでいないが、そこが地域の課題の一つになっているのではないかと常々思っている。

【澁市会長】

子育て世代をどういうふうに助けていくかということか。

【下村委員】

子育て世代が地域に入っていけるというところ、どっちとも難しいなと思っている。

もう一つ、この夏溺水で断水になるかもしれない事態になった。こういう時に地域ぐるみで何か考えられることがあるのかなのか、もどかしさを感じた。各家庭では節水を心がけているが、各家庭どまりである。断水になったら地域ぐるみで助け合わなければならないが、具体的に何ができるか、何が考えられるかはまだ思いついていない。

【澁市会長】

溺水というのは一つの出来事だが小さな災害と考えれば、災害の時にどのように地域が協力していくのかというのが一つの課題である。

【下村委員】

その前に思っていたことが、地域の避難所である学校に町内会と防災士、市の職員が集まり災害時の避難所の開設、運営方法を確認する場に立ち会ったことがある。その際、学校に配置されている備蓄品が本当に少なくて驚いた。そういう状況を目の当たりにしたので、何か具体的な行動をするのか、またはそういう勉強をするのか、そういう研修もしてみたいと思う。

【澁市会長】

町内会長はよく知っているのではないか。避難所を開設する時は誰が集まるか決まっているのではないか。

【杉本委員】

それは避難所によって違うのではないか。

【澁市会長】

避難所ごとにか。

【下村委員】

熱心なところと熱心ではないところで、あまりに違うのだと思った。

【杉本委員】

私のところは北城高校が避難所である。避難して来た人の名前を書いてもらう用

紙をあらかじめ作っておいてどこかに置かせてほしいとお願いしたが、そういうものでさえ置く場所がない。いろいろな課題があって、実際にやってみるとゴロゴロ出てくる。基本的に備蓄食料などはカルチャーセンターにある。

【下村委員】

取りに行けない。

【澁市会長】

あそこまで取りに行くのか。

【杉本委員】

そうである。

【渡部委員】

各避難所にも少しずつあるが、たくさんあるのはカルチャーセンターである。

【澁市会長】

自衛隊に行ってもらえばよい。

【杉本委員】

北城高校は県の施設だから、備蓄食料もないし避難所の備品が一つもない。

【澁市会長】

東本町小学校はどうなのか。

【杉本委員】

東本町小学校は行ったことないから分からないが、若干はあるのではないかな。

【澁市会長】

避難所の開設の問題点ということで、候補の一つとして挙げる。

【杉本委員】

渇水の話で、今の状況からすると城山浄水場は今年中に復旧しそうもない。

【澁市会長】

無理だと思う。

【杉本委員】

来年もこういう事態が起きる可能性がある。市としてはどのように対応するのが非常に疑問である。今年は1回目だから右往左往をした。初めてだから仕方ないという面もあったが、2年目になった時にまた同じことをやるのか。

【澁市会長】

渇水対策ということか。地域を超えた問題である。候補としては上げておく。

【杉本委員】

節水広報車が回った地域は、周りも少しあるけれども高田がほとんどで13区までみんな回ってるわけではない。

【澁市会長】

市内には水道の配水区が多数ある中で、それをつないで有機的な運営ができないのか。

【杉本委員】

それは過去の歴史があるのではないか。

【澁市会長】

合併したのだからよいではないか。東京都では、小河内ダムや利根川、多摩川水系などいくつかの水源を上手く利用している。上越市は中心部の10万人だけが渇水に直面している。ならば、柿崎川ダムの水を持ってくればよいと誰もが思うではないか。

【杉本委員】

上越妙高駅付近の消雪用井戸の水を浄水場に持ってくるために新しく管を敷設しなければならないというようになっていたらくである。

【澁市会長】

それは一つの議論として言えるが、高田区地域協議会の枠を超えているように思う。

【杉本委員】

今回の渇水で一番大きな被害を受けるであろうと思われたところが高田区である。高田区として、ああいうことを二度と起こさないような対策を取ってほしいという意見書を出すくらいことはしてもよいのではないか。

【澁市会長】

「40パーセントの節水をしてください」と漠然とした呼びかけをしているが全くナンセンスである。「洗濯を2回していたところを1回にしてください。そうするとどれだけ節水できます」というように具体的に例示しないとわからない。40

パーセントの節水というのは、市民平均一人当たり平均で400リッターぐらいだ
と思うが、その40パーセントは大きい。どのように節水できるかを水道局は言
うべきである。

【杉本委員】

広報上越7月号に記載されるかと期待したがなかった。

【柴田委員】

高田区は高田城址公園もあるので、下村委員が言われたように子育て世代の環境、
そういったところの研修をぜひお願いしたい。

我々の団体もマミーズネットのイベントに参加させてもらっているが、最先端の
団体だと思うのでぜひ話を聞きたいと思う。その後、高田区の子育て環境、こうい
う施設をどうやって使っていくか、スポーツ施設もあるのでそういったところをど
う活用していくかという話し合いになればいいと思う。

【澁市会長】

なかなか面白い。

【吉田委員】

上越まつりでも外国人の数が増えてきている。そこで高田の観光という形で残せ
るもの、どういう資源があるかピックアップして、残せるものは何らかの形で残し
ていかないとどんどんなくなっていくのではないか。本町6、7丁目あたりに蔵が
結構残っている。それを残してそれを活用するようなまちづくりとか、寺町や公園
のこともしかり。そういう観光資源が結構あると思う。妙高市のほうで外資のリゾ
ート開発が予定されているので、そこを訪れる外国人というのは必ず違ったもの
を見たがるものである。そこで高田まで出てくる人がいる。

【澁市会長】

それは歴史的遺産かと思う。

【村田委員】

今まで出た意見は、本当に参考になる。改めて災害に対しての高田区の再確認、
さらに進化させるという意味で、地震、豪雪、水害、断水、火災。現時点で課題と
かポイントを皆さんで共有できればよいと思っている。意見書を提出してから2、
3年が経過して状況や条件が変わってきたものもあるので、9月以降、あるい

は、この1年間を見通した時に、何がポイントになっていくのかを共有したい、あるいは、深めたいという気持ちでいるが、課題やテーマとしてどう絞り込むか、どの災害に対しても改めて深めていく必要があると思う。

【澁市会長】

災害対応ということか。それとも、対策。

【村田委員】

災害対応、対策の両方である。狭い地域としての対応、もっと広い高田区全体としての視点とか。

【北川委員】

個人的には生活していて困ったことや課題はないが、今、皆さんの話を聞いていて、断水になった場合、特に一人暮らしの高齢者の方への飲料水の配布はどうなるのか心配になった。また、うちでは節水として食器の下洗いに井戸水を使っているが、夏にいつもの年以上に井戸水を使った場合に冬への影響が非常に不安である。高田区ではないが、上越妙高駅前の井戸をつないで取水していると思うが、その影響が冬にどう出てくるのか不安である。

【澁市会長】

あれは200メートルぐらいの深井戸だが、その辺は聞いてみたい。

【山崎委員】

今回の渇水でうちの町内に給水ポイントを作っていただいた。十日町市と柏崎市と新潟市西区の給水車が午前と午後に必ず来て満タンにしてくれて、本当に頭下がる思いであった。そこまではよいが、今言われたように一人暮らしの高齢者がどうやって運べばよいのか。自分で運べる人はよいが、運べない人はタンクはあってもどうやって持っていけばいいのか。そういうことが問題になる。

【杉本委員】

今、稲田橋から見ると渇水と言いながら関川が水を満々と湛えている。以前、堆積している土砂を取ってくれという要望書を市に出して実際やってもらったが、その後出来た島まで水に埋まるぐらい水量が増えている。水量が増えているのかと思ってよくよく見ると、そうではなくて川が浅くなっているのであった。つい先日、2、3人の男の人が左岸から右岸まで歩いて渡っていた。これから秋に向かって増

水したらどうなるかと心配である。現状でも河川敷まで30センチから50センチぐらいしか余裕がない。

【澁市会長】

それは我々が議論してもなんとも言えない。むしろ市を通じて河川事務所に聞いたらいいのではないかな。

【杉本委員】

前は協議会が要望書を出したのをきっかけに市のほうで国に働きかけてくれて土砂の撤去ができた。

【澁市会長】

洪水が来た時に越水するのではないかと心配しているということと言ってもよいのではないかな。

【杉本委員】

それは言う予定ではいる。

【澁市会長】

ここで言われても何もできない。一応候補には書いておく。

【廣川副会長】

確かに浅くなっている。前に掘ってもらったのもいつの間にか元どおりになっている。

【澁市会長】

では、次回の会議に向けて2週間後に正副会長と事務局での打合せを行うので、それまでに今日の議題となったアイデアについて意見があったら事務局に提出してほしい。

以上で、次第2 自主的な審議（2）今後の活動の進め方についてを終了する。

— 次第3 事務連絡 —

【澁市会長】

次第3 事務連絡に入る。

事務局より説明を求める。

【石黒係長】

- ・今後の地域協議会等の日程連絡

第5回地域協議会：9月16日（火）18：30から

高田城址公園オーレンプラザ

第6回地域協議会：10月27日（月）18：30から

高田城址公園オーレンプラザ

【澁市会長】

- ・ただ今の説明について質問を求めるがなし
- ・全体を通して質問等を求めるがなし
- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

総合政策部 地域政策課 南部まちづくりセンター

TEL：025-522-8831（直通）

E-mail：nanbu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。